

## ◆研修会特集◆

# 日本看護協会ホームページと 最新看護索引 Web の活用

今泉千代

**抄録：**日本看護協会では、看護職向けにさまざまな情報を提供している。ホームページから、協会発行物の PDF の提供や、日本看護学会、研修、図書館などの情報を提供している。また、日本看護協会図書館で作成している「最新看護索引 Web」は、看護文献に特化したデータベースで、日本看護協会会員は無料で利用できる。本稿では2012年7月にリニューアルしたホームページの紹介と「最新看護索引 Web」の概要及び基本機能の紹介、及び2012年2月から医中誌 LinkService を利用し、『日本看護学会論文集』電子版 (PDF) 等への全文リンクが可能となった新機能について概説する。

**Key Words：**日本看護協会、最新看護索引 Web、文献検索、看護文献、データベース

## I. はじめに

日本看護協会（以下本会）とは、1946年に設立された保健師・助産師・看護師・准看護師の資格を持つ個人が自主的に加入し運営する日本最大の看護職能団体で、現在約65万人の看護職が加入している。2011年に公益社団法人に移行し、新しくスタートした。本会は渋谷区神宮前にある JNA ビル、東京都清瀬市にある看護研修学校、神戸市にある神戸研修センターと3拠点に分かれている。日本看護協会図書館（以下当館）は看護研修学校内にあり、蔵書数は図書約40,000冊、雑誌約950誌である。

IMAIZUMI Chiyo

公益社団法人日本看護協会図書館

Email : chiyo.imaizumi@nurse.or.jp

(受理日：2012. 8. 31)

## II. ホームページの概要

本会のホームページは、2012年7月にリニューアルし、新しい画面となった（図1）。



図1 日本看護協会ホームページ

「日本看護協会とは」「お知らせ」「重点政策・事業」「生涯学習支援」「看護実践情報」「国際情報」「看護の日」の事業やテーマごとの入り口を設けると同時に、一般の方、看護職の方向けのページも作成した。また、会員専用サイト（会員ログイン）は、入り口のデ

ザインは従来と異なるが、今まで通りご利用いただける。

「日本看護協会とは」には、本会の事業案内等のほかに、本会で編集した以下のような項目の発行物を PDF で全文掲載している。

- 協会・看護関係  
看護統計資料室
- 倫理綱領
- 業務基準
- 指針・ガイドライン
- 調査・研究報告
- 報告書
- 普及啓発
- 先駆的保健活動交流推進事業
- 保健指導支援事業
- 看護職確保定着推進事業
- 英文冊子
- 看護政策研究

「調査・研究報告」の項目に掲載の「日本看護協会調査研究報告」は1974年から本会で行っている独自の調査をまとめたもので、調査内容には、毎年実施する「病院看護職員の需給状況調査」、4年に1度、会員を対象に調査する「看護職員実態調査」などがある。「日本看護協会調査研究報告」は販売もしているが、1号から全て PDF で公開されている。ただし、最新5年分は、後述の会員専用サイトからのみ閲覧できる。

### III. 生涯学習支援のページ

生涯学習支援のページには「図書館」「日本看護学会」「研修」「認定看護師教育」などの項目がある。

#### 1. 図書館

図書館のページでは、開館日・時間の確認、所蔵資料の検索、最新看護索引、文献複写の

案内を掲載している。

当館で所蔵している資料を検索する場合は、所蔵資料の「蔵書検索」をクリック（図2）し、OPAC サービス（図3）に入り、そこからフリーワードまたは条件項目で検索することが可能である。



図2 蔵書検索



図3 OPAC サービス

## 2. 日本看護学会

日本看護学会のページでは、日本看護学会の開催情報、参加申し込み、演題登録、論文投稿などができる。

## 3. 研修のページ

看護研修学校と神戸研修センターで開催する研修が、内容や開催月から検索できる。多くの研修がインターネット申し込み可能と

なっている。

#### IV. 会員専用サイト（会員ログイン）

本会会員は、登録（無料）後、会員専用サイトに入ることができる。会員専用サイトは、「お知らせ」「文献検索」「入学試験問題」「資料室」に分かれている。

##### 1. お知らせ

本会からのお知らせと会員ハンドブックがPDFで閲覧できる。

##### 2. 文献検索

後述の「最新看護索引 Web」（以下「索引 Web」）と日本科学技術振興機構提供の「JDream II」が、無料で利用できる。「JDream II」からは『日本看護学会抄録集』の29回から40回までの全文がPDFで検索、閲覧できる。

##### 3. 入学試験問題

看護研修学校と神戸研修センターで開講している認定看護師教育課程の入学試験問題を、期間限定で公開している。

##### 4. 資料室

「資料室」の項目は、「日本看護学会」「ガイドライン」「国際情報」「業務基準」「調査研究報告」「各種報告書等」「協会ニュース」「総会要綱」「職能集会検討資料」に分かれている。

「日本看護学会」のページでは、41回以降の『日本看護学会抄録集』と42回以降の『日本看護学会論文集』の全文（PDF）を、領域別に冊子単位で掲載している。『日本看護学会論文集』は42回より、冊子での配布ではなく原則電子版のみとなっているので、このページから1冊単位での閲覧か、後述の「索引 Web」から文献単位での閲覧となる。

40回と41回は『日本看護学会論文集』に掲載された優秀論文と学会委員会推薦論文のみ

PDFで掲載している。

『日本看護学会抄録集』は学会開催前に掲載されるので、事前に発表演題を確認できる。

「ガイドライン」の項目では、本会でまとめた「臨床倫理委員会の設置とその活用に関する指針」や「保健医療福祉施設における暴力対策指針—看護者のために」などの指針や『「助産師が自立して助産ケアを行う体制」Q&A』や「看護政策研究」などの報告書をPDFで掲載している。

そのほか協会ニュースは1号（1947年）から、総会要綱は1951年から掲載している。

#### V. 最新看護索引 Web

##### 1. 概要

「索引 Web」とは、当館で作成している看護文献のデータベースである。

採録対象は、当館で所蔵する国内発行の看護および周辺領域の雑誌・紀要等に掲載された文献の中から看護の実践・研究・教育に関する文献で、一部遡及入力されたデータも含まれるが、主に、1987年以降の文献が検索できる。毎月1回更新し2012年8月現在で約200,000件収録している。

採録誌数は休刊、廃刊、タイトルチェンジ等も含め約800誌である。

##### 2. 沿革

雑誌『看護』に毎月100件程度月報という形で文献リストを掲載していたものを、1年分まとめて著者名索引、件名索引をつけて本の形にしたものが「最新看護索引」年刊版（冊子）である。

2004年以前は、当館の司書だけで編集・採録・入力・校正・印刷発注までを行っていたが、徐々にタイムラグが大きくなり、存続の是非を、外部有識者を交え検討した。その結

果、タイムラグを解消するため、採録対象記事を見直し、件数の削減を行ない、質の担保のため編集委員会を設け、編集体制を変更し続けることとなった。

その後、タイムラグが解消してきたことと、ユーザー側のコンピュータ環境が整ってきたこともあり、2007年に会員専用サイト（会員ダイレクト）から Web 版を無料で公開した。それに伴い、'87年版から発行した年刊版は2006年版で終刊となった。

その後、会員になれない看護学生にも利用させたいという希望が、教育機関より寄せられたため、2009年3月に、凸版印刷株式会社コンテンツ配信サービス「ライブラリー・プラス」から機関向けに公開（有料）を始めた。

2012年2月より『日本看護学会論文集』の電子化に伴い、同論文集への全文リンクを開始した。全文リンクのシステムは医学中央雑誌刊行会のご協力を得て、医中誌 Link Service を導入し、CiNii やメディカルオンラインのアイコンも同じように表示されるようになった（表1）。

表1 「最新看護索引」の主な出来事

1989年	「最新看護索引'87」発行
2004年	編集体制の変更
2007年	会員ダイレクトから会員向けに無料公開
	「最新看護索引2006」年刊版（冊子）終刊
2009年	ライブラリー・プラスから機関向け有料公開
2012年	『日本看護学会論文集』への全文リンク開始 医中誌 LinkService の導入

### 3. 特徴

「索引 Web」は、看護職と司書が連携して作成した看護分野に特化したデータベースで

ある。

2004年の新体制以降は、看護職の外部有識者5名と看護研修学校校長、図書館長、最新看護索引担当者で構成する編集委員会を設置し、採録文献や新しいキーワードの検討、採録対象誌の選定を行っている。

実際の採録作業は、大学院修士課程以上を修了した看護職の方が、インデクサーとして在宅で採録作業を行い、月に1回データを提出している。

当館の最新看護索引担当者は、採録基準、記事区分、分類、件名に関するマニュアルやフローチャートを作成したり、インデクサーからの疑問や相談にメールや電話で回答したりしている。また、提出されたデータの書誌事項に誤りがないか、過去の件名等と齟齬がないかなどを確認後、医中誌 Link Service からのリンク情報を埋め込み、最終的にデータをアップしている。

## VI. 機能紹介

### 1. 簡易検索画面

「索引 Web」の簡易検索画面（図4）は、

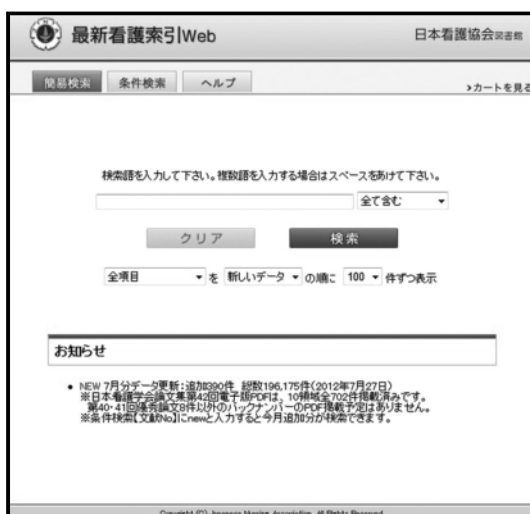


図4 簡易検索画面

トップ画面も兼ね、「お知らせ」にデータの更新情報などを掲載している。

検索ボックスはひとつで、表2に挙げたすべての項目を一括で検索できる。入力できる語は5つまでで、複数の語を入力する場合はスペースで区切り、プルダウンで「全て含む (AND 検索)」または「いずれかを含む (OR 検索)」を指定する。

表2 条件検索の項目ごとの指定条件

	入力可能な数	同一項目での掛け合わせ
件名(キーワード)	3	「すべて含む」「いずれかを含む」「含まない」「いずれか指定
標題 ; 副標題		
特集 ; 副特集		
著者		
雑誌名		
巻(号)	1	×
ページ	1	×
年月	範囲指定	
分類	3	「いずれかを含む」のみ
注記・出典	1	×
記事区分	3	「いずれかを含む」のみ
文献No.	1	×

## 2. 条件検索画面

タブを選択することにより条件検索画面(図5)を選択することもできる。条件検索画面では項目を指定して検索できる。

入力した語は次のボックスで検索語の条件を指定する。「を含む(中間一致)」、「で始まる(前方一致)」、「と一致する(完全一致)」、「で終わる(後方一致)」が選択可能である。一語一語別々に条件を指定することはできないので、すべての語が同じ条件になる。検索語を複数入れた場合は、その次のボックスで、「全て含む(AND 検索)」、「いずれかを含む



図5 条件検索画面

(OR 検索)」、「含まない (NOT 検索)」のいずれかを指定する。分類と記事区分は、1文献に一つ付与しているのので、複数選択した場合はOR検索となる。

同一項目内で掛け合わせができない項目もある。また、掛け合わせができる項目でも、掛け合わせの数が異なる(表2)。

項目間の検索条件はすべてAND検索になる。

## 3. 参照

条件検索の「件名」と「雑誌」の検索のみ利用できる機能に参照機能がある。参照機能では、その項目に含まれる語が何件あるか一覧で見ることができる(図6)。参照ボタンを押し、開いた画面に検索したい語を入力し、検索を押すと、その語を含む件名または雑誌が何件あるか表示される。検索語は2語まで入力可能で「全て含む(AND 検索)」検索が可能である。検索結果が下に表示されるので、その中で検索したい語があった場合は、右端



図6 参照画面

のチェックボックスにチェックを入れて「検索条件に追加」を押すと条件検索画面にその語が自動的に入力される（3語まで）。

#### 4. 検索項目

検索項目は表2に示した通りであるが、よく利用される件名、著者、雑誌、分類、記事区分について説明する。

##### (1) 件名

シソーラスはなく、原則フリータームで付与している。ただし、同意語などは一部統一しているものもある。

##### (2) 著者

著者項目では、著者、ふりがな、所属のいずれも検索可能である。著者が3人までの場合は全員、4人以上の場合は第1著者のみ著者とは別に記者がいる場合は記者も2名まで、それ以上の場合は第1記者のみ、検索可能である。著者のふりがなでも検索可能なので、漢字がわからない場合は便利である。所属は原則雑誌の記載通りで、統一はしていない。

また、条件検索の著者の項目で探す場合に限り、新字と旧字、異体字も一括で検索できる。たとえば「山崎」と「山崎」は、どちら

で検索しても両方ヒットする。簡易画面でも著者検索は可能だが、新字、旧字、異体字は別々に認識され一括で検索はできない。新字、旧字、異体字の一括検索可能な文字のリストはヘルプの「12著者」の項目に掲載している。

##### (3) 雑誌

雑誌名またはISSNで検索できる。条件検索の場合は、参照画面で誌名を確認後検索すると漏れがない。またヘルプの「13雑誌名」に、掲載誌一覧をPDFファイルで掲載している。

##### (4) 分類

全ての文献に1つ分類が付与されている。分類項目とその主な内容は、ヘルプの「18分類」に一覧で掲載している。分類で文献を絞る場合は最大3つまで選択できる。複数選んだ場合は自動的にOR検索の指定となる。

『日本看護学会集録』『日本看護学会論文集』は、「日本看護学会ほか」という分類にまとめて掲載し、主題での分類はしていない。また『日本看護学会抄録集』は抄録のため「索引Web」では採録対象外としている。

##### (5) 記事区分

1999年版以降は、すべての文献に原著、研究、調査、事例、実践、資料、総説、提言、判例、法律のいずれかを付与している。解説、抄録、講演、シンポジウム、インタビュー、座談会は2001年版以前の文献にのみ付与されている。編集方針が変更となった2002年採録分以降は、これらの文献は採録対象外としているが、利用者のニーズが多いということが、当館の複写状況や利用者の動向より見受けられ、編集委員会で検討した結果2011年採録分より、看護職の書いた解説（基礎教育レベルのものやマニュアル的なものは除く）と、講演録でも講演後にまとめ直した資料的価値が

あるものは採録対象とすることになった。

記事区分の判断は原則雑誌に記載があればそれを優先し、ない場合はインデクサーが付与する。ただし原著は、雑誌に記載されている場合のみ付与し、インデクサーの判断では付与していない。また1997年版から1999年版の文献でも、原著と雑誌に記載があったものは「索引 Web」にも記載している。

記事区分の一覧は、ヘルプページの「20記事区分」にも掲載している。

### Ⅶ. 検索結果表示・印刷

検索結果には図7のように、標題、著者、ふりがな、所属、雑誌名 (ISSN)、巻 (号)、ページ、発行年月、分類、キーワード、注記・出典、記事区分、文献番号が表示される。標題のみのコンパクトな表示形式に変更することもできる。

2012年2月より「索引 Web」に医中誌 LinkService を導入した。それにより42回以降の『日本看護学会論文集』は文献単位で、全文 PDF へ直接リンクできるようになった。

また『日本看護学会論文集』以外の文献も CiNii、J-Stage、メディカルオンライン、Medical Finder、Pier Online、PubMed など他のデータベースへのリンクが可能となり、全文へのリンクも可能となったため、今まで身近に資料がなかった場合は複写申し込みをするしか方法がなかったが、アクセスが大幅に向上した。

図7の四角で囲んだ部分がリンク情報である。この例では「CiNii」「最新看護索引 Web PDF」「医中誌 Web」のアイコンが表示されている。このうち「最新看護索引 Web PDF」をクリックすると『日本看護学会論文集』に掲載された論文が PDF で表示される (図



図7 検索結果の表示例



図8 『論文集』 PDF の表示例

8)。

印刷はブラウザの印刷機能から行う。

### Ⅷ. 会員向けと機関向けの機能の相違点

機関向けと会員向けの大きな相違点としては、機関向けは Web から直接複写の申し込みができないが、会員向けは Web から直接複写の申し込みができる点である。どちらも文献を保存する機能はあるが、機関向けの場合は文献の保存のみの機能なので「文献フォ

ルダ」(図9)、会員向けの場合は複写申込できる機能があるため、「カート」(図10) というように名称が異なっている。



図9 文献フォルダ

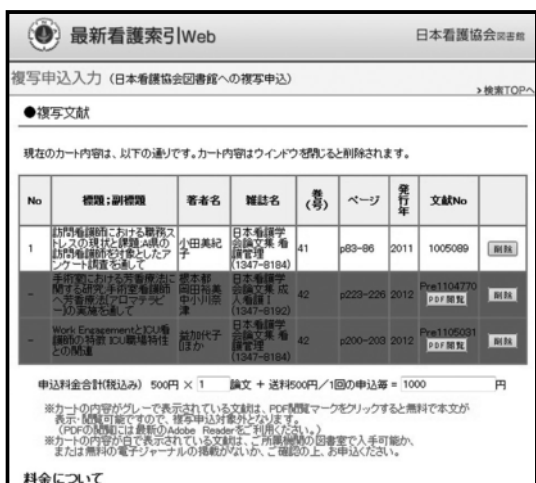


図10 カート画面

### 1. 文献フォルダ

検索結果の右端にチェックボックスがあり、チェックして「チェックした文献のフォルダ保存」を押すと、フォルダに文献を保存できる。「文献フォルダ」には最大50件まで保存できる。

保存したデータは、簡易検索、条件検索いづれからでも「文献フォルダ」をクリックすればフォルダにある文献を確認できる。またフォルダに保存したデータは、削除ボタンで不要な文献を削除することもできる。「索引

Web」を閉じない限り、フォルダに保存される。保存したデータのダウンロードやメール転送機能はない。

機関向けの場合、Web から直接複写申し込みはできないが、図書館等からの相互貸借は、ファックスまたは郵便で受け付けている。料金、送付条件等は本会会員に準じる。

### 2. カート

「文献フォルダ」と同様に検索結果をチェックし、「チェックした文献の複写申込」を押すと「カート」に文献が最大50件まで保存でき、必要に応じてWeb から複写の申込ができる。複写文献の確認画面では、「最新看護索引Web PDF」のアイコンがあるものは、「索引Web」から全文を閲覧、印刷できるので、グレーで表示され(図10)、複写申込ができないシステムになっている。

### IX. おわりに

「索引 Web」の利用対象者の中心は、文献検索の初級から中級程度と想定し、マニュアルを読まなくても検索ができるようなシンプルで使いやすいデータベースとなっている。

「索引 Web」から直接複写申込ができるようになったことで、会員からの複写申込が以前の3倍に増加するなど、会員の利便性が大幅に向上した。

さらに、2012年2月より『日本看護学会論文集』の全文PDFが「索引 Web」から利用できることとなったため、機関契約も大幅に増加した。機関向けは有料になるが、1アクセス1,050円/月からと低価格の設定としているので、多くの機関の方に使っていただければ幸いである。

(本稿は第19回日赤図書室協議会研修会での発表を元にまとめたものである。)



参考文献

- 1) 今泉千代：最新看護索引 Web の紹介。  
看護と情報 2010；17：57-61.
- 2) 今泉千代，江藤夏子，根岸准子：日本看護協会公式ホームページの活用；“最新看護索引 Web”を中心に。病院図書館 2009；29(1)：21-27.
- 3) 今泉千代：最新看護索引 Web の開発経緯と機能紹介。オンライン検索 2009；30(3/4)：72-81.
- 4) 凸版印刷法人向けコンテンツサービスライブラリー・プラス  
<http://www.libraryplus.jp/>  
[引用2012. 8. 31]